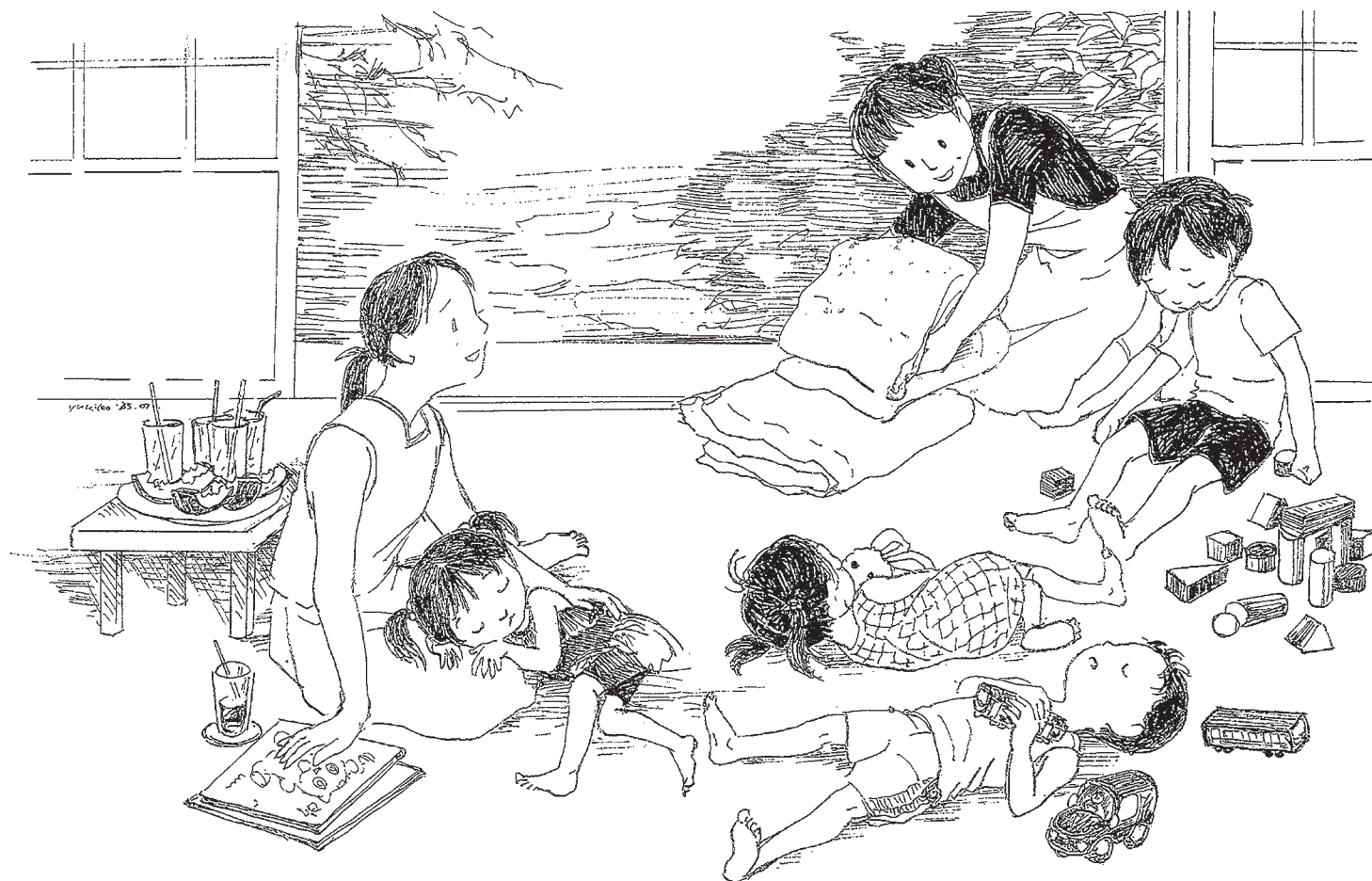




●年間聖句　すべてを吟味し、良いものを大切に下さい。(テサロニケ信徒への手紙I.5章21節)



表紙絵・中島 由起子

# 五十路へ向けて

光の子どもの家 副施設長 小西 剛史

児童養護施設における処遇職員の働き、そしてその成果とは何なのか、入職後20数年を経ても思い悩むことがある。かつての施設長からは『ただ（子どもの傍に）居るだけでいいんだ』と言われてきたが、その言葉の意味を深く考えずに『居るだけでいいのか』などと真に受けて過ごしていた時期もあった。そして数年の経験を積み重ねると『子どもたちの人生を正しい方向へ導く事が自分の責務だ』などと思いがった考えを持つようになる。そしてそんな思い上がりはさらなる経験を重ねる中で打ち削られ、角が取れ、丸くなつていった。

今年度、高校3年生となった翔平は部活動と学習を両立した高校生活を経て、来年度に向け4年制大学への進学を目指している。彼は小学4年生の夏に入所してから現在に至るまで、多くの時間を私と

共に過ごしてきた。先日ある職員から『翔平はあなたのおかげで真っ直ぐに成長したね』と言われた。とても嬉しい労いの言葉であり、ここでの働きに対するこの上ない評価だとも感じた。ただその直後に別の児童のことが頭をよぎった。その彼に遅れること2年、同じく小学4年生で入所してきた礼。学童期は愛嬌があり面白い子という印象だったが、中学入学を経て徐々にトラブルを頻発するようになり、3年生の後半からは他者とのトラブルを防ぐために通学を自主的に控えさせもした。卒業後は心機一転、単位制の高校に進学を決めるも、その登下校で築く不穏な人間関係、夜中になつても帰って来ない日々、頻発する警察からの連絡……。私自身何とかやり過ごしてきたのは、仲間である職員たちからの助けがあつた『おかげ』である。

『自分の関わりが子どもの

成長へと直結するなら、同じような年頃に同じように関わってきた2人の乖離は何なのだろうか？』答えは簡単である。『子どもたちそれぞれにある人生の流れ、それを大きく変えられる力など我々にはほとんどない』ということだ。ただ『それを認めることがここでの働きにおいて妥協や諦めへと安易に繋がりはしないか……』結局、自問自答を繰り返してしまふ。

そして今はこう考えている、それはここに来た子どもたちが18歳になるまでの暮らしの中で、楽しかった記憶や

多くの大人に守られ安心して暮らしてきた記憶を彼らの頭にくさくさ積み重ねること。そして彼等が大人になった時に、それらの記憶が心の土台となり時折思い出し安堵する瞬間があればそれでいい。土台が壊れかけたらまた戻ってくればいい、いつでも『居る』から。

『居るだけでいい』の解釈を少し深めた五十路前。

【休載のお知らせ】

近藤みちる「共育ちカンガルー日記」は休載です。



小学生になる前に、自転車に乗れた！

# 老いに戸惑いながら

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

この7月に87歳を超えた。超高齢者の入り口といったところで、これまで経験したことのない事どもに出会い、困惑することが多い。漢字を正確に書けなくなり、医師の診察記録であるいわゆるカルテにはひらがなが多くなっている。臨床医としての仕事はそろそろ返上しなければならぬという時期に差し掛かって来たという事らしい。運動能力については、ベッドの中では毎日実施してきたストレッチ体操が役に立って、いまだに週一でテニスに出かけている。一方、歩いている最中につま先が上がらず、つんのめってしまう事があつたりする。唯、長年鍛えてきた（?!）飲酒だけは衰えることが無く、昨日も息子二家族と会食したが、私が最も多く酒を飲んでしまったらしい。しかも、たいした二日酔いもせずに、こうして原稿を書いている次第。

今年の夏は猛暑続きで、私の記憶では、30度を超える日がこんなに続いた年は経験したことがない。日本だけでなく、地球規模での気候変動が起きていらいらしい。熊がヒトを襲う事件が頻繁に報告されているが、これも自然の様態が変化し始めた結果と見るべきではないかと思う。歴史とは、人間が自然に働きかけて、それを変化させることを通じて形成されてきたものだが、立ち止まって考えてみると、人間の行動は、全体としては地球を痛めつける方向に進んできたように思えてならない。

種々の宗教や哲学が成立していったような気がする。しかし、最近、そのような人間の真摯な思考や行動をあざ笑うような人間社会の方向性が認められるようになってきた。またまた、前号でも触れた、米大統領、トランプの事である。彼の行動規範は、国際法違反と断じられても仕方のないところまで来てしまったようだ。自分の言辞によって他国を追い込み、その結果を公然とあざ笑うようなことは、国際倫理上許されることではあるまい。残念なのは、米国の人々のトランプ批判の声があまりにも小さく、なかなか広まって行かないことである。

とは言いながら、私は人間の将来を悲観的に見てはいない。近時の人間知の進化速度は、過去のそれとは異質で、いま人間世界では、従来とは全く異なる文化が形成され始めたと言っても過言ではあるまい。AI（人工知能）の進展は留まるところを知らない。最近、AIEE（人工知能）と称されるコンピュータシステムが開発され、人間の知



ブロックでつくった車

## 披露宴にて

彫刻家 中島 睦雄

歳をとると、人との繋がりも更に広がり、結婚式やら披露宴などにも呼ばれる機会が増えてくるのであろう。

或る方の結婚式にご招待され、その後の披露宴で、珍しいなと思った場面が2つほどあった。

司会者が来客の1人1人を指名して、新郎新婦にお祝いの言葉を述べるのであるが、女性の客を指名した際、「紅一点の○○さん」と指名したのであった。

しかも、指名する全ての女性に「紅一点の○○さん」と指名するのである。

女性のお客様は何人もいるのに、おやおやと思った。

「万緑叢中紅一点」なのであって、何人も居る女性の方に、全て「紅一点」とは不思議だと思った。男性だらけの中に唯一の女性なら解るのだが……。

言葉というのは一人一人の認識や捉え方もあるので共通

認識という物は非常に難しいとも思った。

また、これとは別の結婚式後の披露宴では、若い人たちが歌を歌って祝う場面が多かった。

その中の新婦の友人らしき女性が歌ったのであるが、歌詞を良く聴いていると、なんとまあ「別れの歌」なのである。

私は色々考えた。「本人にとっては得意な曲」「新婦が好きな曲」「新婦との思い出の曲」「当時流行っていた曲」……。そのようなことならまだ良いのだが、別の考えとして「最近失恋した」「実は色々あった」「恋敵であった」「私より先に結婚しやがって」「新郎と昔お付き合いがあった」「などなど勝手ながら良かった」「など想像させてしまったのである。」「あくまで「私の想像である。」

兎にも角にも、場所に似合わない曲であった。

グループホームから

「地域の中で暮らす」

折原 千絵

年度末、本園から地域のグループホームに引越した子どもたちがいます。引越しに伴い、小学生は転校もしました。

今までの通学路は田んぼ道で車は少なく、近所の方は光の子どもの家の子どもと知っていて見守ってくれ、登下校には職員の付き添いがありました。

転校先の小学校は児童数が多く、交通量の多い道や踏切を通っていかねばなりません。地域の子どもたちと一緒に登校班なので、職員の付き添いありません。

すると、登校班の集合時刻に来ていない子の家に行っても何度もチャイムを押してしまったり、下校時に友人と物のやり取りや追いかけてしまったりして、学校の先生から注意を受けるといことが起こりました。

本園は家が3軒あるものと同じ施設内。食事や寝起きは家ごとでも、日中は一緒に過

ごしています。子どもも職員も約束を取り付けることなくお互いの家に自由に行き来することができずし、ノックも声かけもせず隣の家に上がり込んでしまうこともありま。園庭から、本園内の他の家の中にいる子どもや職員に話し掛けることも日常茶飯事です。

しかし、それは地域の常識ではありません。グループホームに引越して、まだ近所の友人とも知り合ったばかりなのに、道路から大きな声で呼び出したり、約束もしていないのに家に行つてチャイムを鳴らして遊ぼうと言ったり……。本園での生活しか知らなかった子どもたちは、地域の中では人との距離感や常識に欠ける言動をしてしまうことに……。私達職員が暗黙の了解や常識というものを少しずつ教えていかなければいけないと感じました。上手に周りと付き合っていくように。今後とも温かく見守っていただければ幸いです。

# グループホームから 「夏宿泊行事を経験して」

平野 砂恵

夏休みに入りまもなくの宿泊行事の1つとして我が家でお泊まりをすることに決めたのは2ヶ月も前のことでした。グループホームで生活している幼児の重明君、小学3年生の福君は、そのお泊りするのをずいぶん前から楽しみにしていました。我が家の愛犬寿奈（ジュナ）とのふれあいもその1つのようです。

当日、我が家にやってきた子どもたち。幼児重明君は寿奈に触りたいと思っていて、なかなか近寄れず、寿奈の方から近づくと怖くなり重明君が逃げてしまいました。その晩、不意に開けたドアの向こうで寿奈と鉢合わせて、パニックになりそれはそれは大号泣でした。

これで寿奈との触れ合いは終わ里かと思いましたが、何ということでしょう。翌朝、重明君自ら寿奈の所へ行き、餌を自分の手の平に乗せ、食べさせることができました。その姿を見られたこと

に私自身本当にビックリしました。子どもの成長って何があったきっかけで起きるか分からないと思う出来事でした。

また、泊まりに来ている間、武蔵丘陵森林公園と小山の子供の遊び場に電車で行ってきました。

小学3年生の福君は重明君の面倒をみてくれたり、電車でのマナーをスラスラと答えた重明君がいました。普段一緒に生活している三井指導員の教えをしつかりと聞いていたようです。そのことで本当に助かりました。2人とも怪我也なく、たくさん遊べ、寿奈と触れ合うことができた2

日間、寿奈も優しい彼らが大好きです。素敵な思ひ出ありがとう。

## 夏季行事から 「キャンプなど」

酒本 平

夏休み、今年も子どもたちがプールで元気に遊ぶ声が園庭に響いています。

今夏も厨房の職員、GHの指導員とで1泊2日の夏期行事を企画し、男児6名を栃木県那須郡にあるキャンプ場に行ってきました。

小学生男児はカブトムシ取りを楽しんでおり、普段はか



暑すぎる夏、プールがないと外遊びができません。施設開設間もないころから40年近く使っている伝統のプールです。

なりのインドアな中学生男子も、渋々ながらもゲームから離れて、BBQや花火をして一緒に過ごすことが出来ました。

他にも「ながわ水遊園」や「大谷資料館」にも寄つて、普段はなかなかさせてあげられない特別な体験になったかと思ひます。

自然に触れながら知れた者同士で過ごしたことで、子どもたちは一回り成長したように感じます。

職務上、普段は子どもたちとは直接関わるのが少ない私ですが、私のこのような趣味も通して、子どもたちとで楽しい時間を分かち合うことができることは光の子どもの家の大きな特徴の1つだと思います。

まだまだ暑い日が続きそうですが、厨房の職員としても子どもたちの健康を支えることとの関わりをしていきたいと思ひます。

光の子どもの家を多方面から支えてくださっている方々へ感謝して、皆さまのご健康をお祈りします。

# 佐藤家から 「新鮮で別次元」

遠藤 恵里香

光の子どもの家での生活を始め、早くも十年たちました。目まぐるしい毎日ではあります。子どもと過ごす日々は、新鮮で奇想天外なもののばかりです。

昨年度入所した真波は、年長組とは思えないほど弁が立ち、記憶力も人並み外れたものを持っています。そんな真波の夢は「アイドルとプリキュアと保育士」になることです。

日ごろからプリキュアを見ては一緒に踊ったり、変身したりプリキュアの世界に入り込んでいます。しかし、彼女はそれだけでは物足りず、テレビの合間のコマージュにまで入り込みます。

「これ、化粧水感覚の……ニベアボディウォッシュ」と言いながら腕を洗うしぐさを見せ、関節痛に効く錠剤のコマージュが始まれば、テレビのおばあちゃんと一緒に膝を押さえて痛がりします。どれも真剣に再現しており、大変

見ごたえがあります。

テレビを見ているときだけでなく、就寝前の本読みでも、持ち前の記憶力と演技力を発揮し、「真波がこの子の役やるから」と話し、臨場感あふれるセリフ読みを披露しています。

真波は特に「シンデレラ」「白雪姫」「人魚姫」といったプリンセスの役を好みます。きつと逆境に直面しつつも負けないプリンセスたちにシンパシーを感じると同時に、あこがれの念も抱いているのでしょう。

そんな日々を過ごしている真波ですが、ある日の食事中、突然、

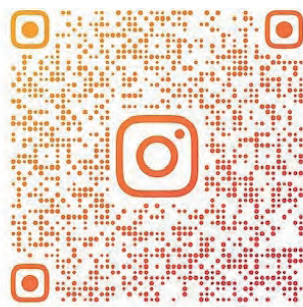
「遠藤ちゃん、真波もうこの世界飽きた。」

と話し、食卓のメンバーを呆然とさせたことがあります。彼女が過ごす日常は、私たちが考えるものとは全く別の次元にあるのだと感じました。

最近の彼女の演技レパートリーに新たに「千と千尋の神隠し」が追加されました。名シーンと言われる場面を、片っ端から一人で再現し、彼女

の見ている世界とともに楽しませてもらっています。

インスタ日誌抄



@HIKARINOKODOMONOE

インスタグラム始めました。日常の様子など投稿しています。

寄贈いただいた、工具のよな遊具が人気です。天気が悪かったり、暑すぎて外で遊べないとき、食堂でよく遊ばれています。（6月27日投稿）



ご招待をいただき「むさしの村」へ遊びに行きました。午前中は収穫体験。長ネギ、ナス、オクラを収穫し、ブルーベリーは摘んだその場でいただきました。（7月31日投稿）

原田家から  
「宿直記」

黒川 健一郎

日勤の私ですが、今年度から宿直も兼ねることになりました。

勤続10年経っての初宿直。どのようなことをしたら良いのだろうか少し戸惑い、上司に質問や相談もしましたが、返ってくる応えが、いかにも「光の子どもの家らしく」、良くも悪くも私に取っては全く参考になりませんでした。なので自分なりに模索していかうかと。

そんなこんなで、宿直をはじめましたが、それを通して子どもたちの日中では見られない光景がありました。今年度初めに入所した小学

4年生の清正は、非常に寝相が悪く、例えていうなら「時計の針」です。時間が経つにつれヘソを中心に足から円を描くように回り始め、私の身体はどこかにぶつかり、私がそれを避けるとまた再稼働します。春頃は持っている花粉症のせいで、深夜に起きて鼻をかみます。「ズピー！ズピー！すうすうズッピー！！」鼻水がちゃんとして出ているのか疑うようなその音は私に取っての早すぎる目覚ましでした。

幼稚園年長の大輔と小学1年の秀明の2人部屋で寝る時は、毎回絵本の読み聞かせをするのですが、読む際は双方から私の布団に寄ってきて、読み終わると、その場で寝たいようで、自分の布団に行こ

うとはしません。本を読んでも、良い感じにまったりしてきて、せつかく寝付きかけているのでそのままに。私はとても窮屈です。そして夏場の今はかなり熱いです笑。エアコンでなんとかやり過ごしています。ただ、活動している時の彼等とは打って変わって、読書後早ければ5分で寝てしまいます。

先日、大輔が私の布団におねしょをしました。おねしょはほぼ必ずします。なので寝る前にトイレに行き、オムツに履き替えることは必須です。彼はそこら辺がまだ緩く、日中でも支援が必要でなくらいです。「おねしょをしなかった」「褒められた」という成功体験を味わって欲しいく、私が宿直の日は10時〜11時の間に1度起こしてトイレに連れて行きます。ある日の宿直、夜にそれらをやったにも関わらずおねしょをしてしまいました。私の寝ている布団、寝相によるオムツからの横漏れです。

明け方、彼が早く起きて、「トイレ」と言い、自ら進ん

で行ったことに違和感を覚えた私は、彼が潜り込んでいた私の布団の左側面を調べてみるとほんの少し「しっとり」していました。バツが悪そうにトイレ（実は使用済みオムツの処理に行っていた笑）から戻ってきた大輔、布団のこたを知られたことに察して更にバツが悪い様子。

彼とはその事で話もしましたが、バツが悪いということ、は、良くない事をしたと本人が1番分かっているわけで、そこに叱ったり、注意したりとマイナスな言葉は更にマイナスな訳で……けれども伝えていかなきゃならない訳で……。

ある日から、大輔は私が宿直する日の度にこう聞いてきます。「夜にトイレに起こして」と。

彼なりに自身の問題に向き合っているのだらうなと捉えました。今も宿直の度に「今日も夜トイレに起こして」と言ってきます。長い道のりにはなるかもしれませんが、続けていこうと思います。



# 日誌抄

2025年6月  
2025年8月

## 【9月1日の在籍児童数】

幼稚園5名 小学生14名  
中学生10名 高校生5名  
計 34名

## 【6月】

2日 理事会  
4日 後援会総会  
23日 子どもの居室で故障したエアコンの交換工事  
27日 刀川評議員発案の職員カフェ第1回を実施

## 【7月】

5日 がんばろう会として、後援会の皆様とカレー昼食会  
12日 小西と小学生5名、デジタルデトックスがてら松田川ダムで沢ガニとふれあう  
24日 宿泊行事①男児1名と穴水施設長が玉原高原へ、②平野宅（本誌5頁参照）③キャンプ（本誌5頁参照）  
29日 県内の各児童養護施設に招待があり、むさしの村で収穫体験と遊園地を楽しむ  
【8月】  
1日 企業からお声がけがあり、池袋でリユースおもちゃの展示会へ

2日 佐藤家と仙道家、野田・清水公園アスレチックへ  
5日 東仙道家に卒園生の子どもが宿泊

18日 宮本一弘氏（開成中学校・高等学校）と宮本和歌子氏（俳優・ナレーター）による化学実験教室＋英語で遊ぼう  
18日 小学生4名、日本バプテスト連合日曜学校キャンプに参加し、さしま少年自然の家へ  
夏休みのうちに予防接種を済まそう週間

20日 東大宮教会中高科夏期学校、大洗アクアワールドと国営ひたち海浜公園ひたちなか臨海公園へ  
23日、24日 幼児3名が「おかあさんといっしょスペシャルステージ」観覧のためさいたまスーパーアリーナへ  
25日 小学生2名「アクアパーク品川」へ

【礼拝ご奉仕各位】  
東大宮教会 東埼玉バプテスト教会 佐々木優牧師  
【委員会の主な動き】  
加須北子育て応援フードパントリー大利根会場、奇数月第3金曜に開催中

里親支援専門相談員、研修に参加  
安全運転管理者講習に参加  
【実習受入】  
十文字学園女子大学1名  
東京家政大学4名 秋草学園短期大学2名

【インターシップ】  
東京基督教大学1名  
【寄贈】（敬称略）  
相崎伸子 大橋清榮 柏浦一也 金久保公男 小城きい 斎藤美砂 佐東亜矢 サヘル・ローズ 白井伸英 鈴木史乃 高橋智史 長谷川（後援会） 浜田文昭 樋口まち子 古川景子 松崎玉恵 矢島正 山口榮子 鴨川会 コストコ群馬明和店 すくすく広場 パイルケミカル（株） 藤沼畜産 未来へ繋ぐバトン Gモプレシヤス（株）

他多数の皆様  
【ボランティア】（敬称略）  
〈華道〉岡本有代  
〈手芸〉山田智・裕子  
〈ウクレレ〉関口晃  
〈工作〉常松洋介  
〈保育〉坂本美紗子 千葉の中里さらさ  
他多数の皆様

ご寄付について（物品の寄贈は事前にお問い合わせください）

【郵便振替】00130-1-128022

他銀行から【銀行名】ゆうちょ銀行 【金融機関コード】9900 【店名】019店  
【店番】019 【預金種目】当座 【口座番号】0128022

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3  
【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp  
【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【印刷】（株）エル・アートデザイン